

坂城町内遺跡発掘調査報告書2013

—平成25年度試掘・立会い調査報告書—

2014. 3

坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成25年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制
 担 当 者 青木 昌也（文化財センター所長）、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
 協 力 者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成
 教 育 長 宮崎 義也
 教 育 文 化 課 長 柳澤 博
 文化財センター所長 青木 昌也
 文 化 財 係 時信 武史
 赤池 利博、朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、
 中沢 あつみ、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は青木・時信が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図に縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

目 次

例 言

凡 例

第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 試掘調査の結果	6
1 金井遺跡2	6
2 大木久保遺跡Ⅰ	8
第Ⅲ章 立会い調査の結果	14
報告書抄録	

第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接合点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大森山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半田の岩鼻が狭い地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は3、4ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する堅穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林 1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、全

長112mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が注目される。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊鶴堂遺跡（20）、開軌遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡（44）がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開軌製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林1999）。開軌製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学術に位置づけられるものであった。

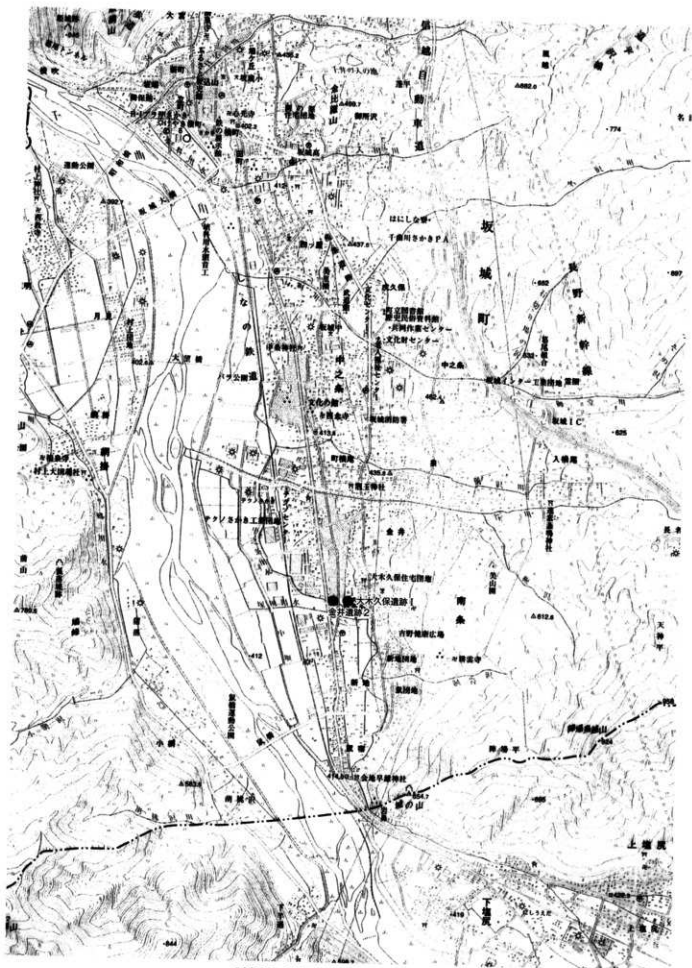
江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開軌製鉄遺跡―第1次調査報告』 1979『開軌製鉄遺跡―第2次調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅱ』 1995『東高遺跡』 1996『豊鶴堂遺跡・上町遺跡・寺裏遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2000『開軌遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966『長野県埴科郡保地遺跡調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森崎 登ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998『第5節 開軌遺跡』『北陸新幹線埴科郡文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埴科郡文化財センター
- 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』第11章 観音平経塚『上信越自動車道埴科郡文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埴科郡文化財センター



試掘調査位置図 (1 : 25,000)



坂城町遺跡分布図

図面番号	道 路 名	種 別	時 代
1	南島津線	高津	弥生~平安
1-1	南島津線 東高津線	高津	弥生~平安
1-2	南島津線 南島津線 (東部)	高津	弥生~平安
1-3	南島津線 百々目津線	高津	弥生~平安
1-4	南島津線 中町津線 (新地)	高津	弥生~平安
1-5	南島津線 田町津線	高津	弥生~平安
1-6	南島津線 廻り目津線	高津	弥生~平安
1-7	南島津線 厚田津線 (旧道)	高津	弥生~平安
1-8	南島津線 黄木下津線	水田、低田	弥生~平安
2	金井河津線	高津	縄文~平安
2-1	金井河津線 金井津線	高津	縄文~平安
2-2	金井河津線 杜宮津線 (金井河)	高津	縄文~平安
2-3	金井河津線 釜水下津線	高津	縄文~平安
3	金井東津線	高津	縄文~平安
3-1	金井東津線 保地津線	高津	縄文~平安
3-2	金井東津線 山金井津線	高津	縄文~平安
3-3	金井東津線 大久保津線 (南島小学校敷地)	高津	縄文~平安
4	金井東津線 源五津線	高津	縄文~平安
4-1	源ヶ谷古津	古津	古津
5	杜宮神社	社 寺	中世
6	町尾津線	高津	縄文~平安
7	北津古津	古津	古津 (後期)
8	中之島津線	高津	縄文~平安
8-1	中之島津線 寺津線	高津	縄文~平安
8-2	中之島津線 上河津線	高津	縄文~平安
8-3	中之島津線 宮河津線	高津	縄文~平安
8-4	中之島津線 北津線	高津	縄文~平安
8-5	中之島津線 宮上津線	高津	縄文~平安
8-6	中之島津線 北川津線	高津	縄文~平安
9	南島津大古津 (飯久古津)	古津	古津 (後期)
10	谷川古津線	古津	古津 (後期)
10-1	谷川古津線 入横尾支線 向山古津	古津	古津 (後期)
10-2	谷川古津線 入横尾支線 坂津古津	古津	古津 (後期)
11	入横尾津線	古津	平安
12	谷川古津線 上原支線	古津	古津 (後期)
13	新原津線	墳 墓	中世~近世
14	御堂川古津線 山口支線	古津	古津 (後期)
15	山崎津線	古津	縄文
16	御堂川古津線 山崎支線	古津	古津 (後期)
17	御堂川古津線 新山支線	古津	古津 (後期)
18	御堂川古津線 新山4号線	古津	古津 (後期)
19	御堂川古津線 新山5号線	古津	古津 (後期)
20	御堂川古津線 新山6号線	古津	古津 (後期)
21	御堂川古津線 新山7号線	古津	古津 (後期)
22	御堂川古津線 新山8号線	古津	古津 (後期)
23	御堂川古津線 新山9号線	古津	古津 (後期)
24	御堂川古津線 新山10号線	古津	古津 (後期)
25	御堂川古津線 新山11号線	古津	古津 (後期)
26	御堂川古津線 新山12号線	古津	古津 (後期)
27	御堂川古津線 新山13号線	古津	古津 (後期)
28	御堂川古津線 新山14号線	古津	古津 (後期)
29	御堂川古津線 東平支線 二層古津	古津	古津 (後期)
30	御堂川古津線 山崎支線	古津	古津 (後期)
31	皇親愛津線 (山崎北津線)	高津	縄文~弥生
32	関津線	高津	弥生~平安
33	人塚古津	古津	古津 (後期)
34	時々津線	高津	縄文~平安
35	成久保津線	高津	古津~平安
36	入田津線	古津	弥生~平安
37	堤内古津 (御所沢古津)	古津	古津 (後期)
38	金比羅山津線	古津	縄文~平安
39	堤平津線	古津	中世
40	堤内津線	古津	平安
41	山崎津線	高津	縄文~平安
42	山崎津線	高津	縄文~平安
43	山崎津線	高津	縄文~平安
44	山崎津線	高津	縄文~平安
45	山崎津線	高津	縄文~平安
46	山崎津線	高津	縄文~平安
47	山崎津線	高津	縄文~平安
48	山崎津線	高津	縄文~平安
49	山崎津線	高津	縄文~平安
50	山崎津線	高津	縄文~平安
51	山崎津線	高津	縄文~平安
52	山崎津線	高津	縄文~平安
53	山崎津線	高津	縄文~平安
54	山崎津線	高津	縄文~平安
55	山崎津線	高津	縄文~平安
56	山崎津線	高津	縄文~平安
57	山崎津線	高津	縄文~平安
58	山崎津線	高津	縄文~平安
59	山崎津線	高津	縄文~平安
60	山崎津線	高津	縄文~平安
61	山崎津線	高津	縄文~平安
62	山崎津線	高津	縄文~平安
63	山崎津線	高津	縄文~平安
64	山崎津線	高津	縄文~平安
65	山崎津線	高津	縄文~平安
66	山崎津線	高津	縄文~平安
67	山崎津線	高津	縄文~平安
68	山崎津線	高津	縄文~平安
69	山崎津線	高津	縄文~平安
70	山崎津線	高津	縄文~平安
71	山崎津線	高津	縄文~平安
72	山崎津線	高津	縄文~平安
73	山崎津線	高津	縄文~平安
74	山崎津線	高津	縄文~平安
75	山崎津線	高津	縄文~平安
76	山崎津線	高津	縄文~平安
77	山崎津線	高津	縄文~平安
78	山崎津線	高津	縄文~平安
79	山崎津線	高津	縄文~平安
80	山崎津線	高津	縄文~平安
81	山崎津線	高津	縄文~平安
82	山崎津線	高津	縄文~平安
83	山崎津線	高津	縄文~平安
84	山崎津線	高津	縄文~平安
85	山崎津線	高津	縄文~平安
86	山崎津線	高津	縄文~平安
87	山崎津線	高津	縄文~平安
88	山崎津線	高津	縄文~平安
89	山崎津線	高津	縄文~平安
90	山崎津線	高津	縄文~平安

図面番号	道 路 名	種 別	時 代
34	堤内津線	高津	平安
35	平沢津線	高津	縄文
36	谷川津線	高津	縄文~平安
37	谷川津線	高津	縄文~平安
38	谷川津線	高津	縄文~平安
39	谷川津線	高津	縄文~平安
40	谷川津線	高津	縄文~平安
41	谷川津線	高津	縄文~平安
42	谷川津線	高津	縄文~平安
43	谷川津線	高津	縄文~平安
44	谷川津線	高津	縄文~平安
45	谷川津線	高津	縄文~平安
46	谷川津線	高津	縄文~平安
47	谷川津線	高津	縄文~平安
48	谷川津線	高津	縄文~平安
49	谷川津線	高津	縄文~平安
50	谷川津線	高津	縄文~平安
51	谷川津線	高津	縄文~平安
52	谷川津線	高津	縄文~平安
53	谷川津線	高津	縄文~平安
54	谷川津線	高津	縄文~平安
55	谷川津線	高津	縄文~平安
56	谷川津線	高津	縄文~平安
57	谷川津線	高津	縄文~平安
58	谷川津線	高津	縄文~平安
59	谷川津線	高津	縄文~平安
60	谷川津線	高津	縄文~平安
61	谷川津線	高津	縄文~平安
62	谷川津線	高津	縄文~平安
63	谷川津線	高津	縄文~平安
64	谷川津線	高津	縄文~平安
65	谷川津線	高津	縄文~平安
66	谷川津線	高津	縄文~平安
67	谷川津線	高津	縄文~平安
68	谷川津線	高津	縄文~平安
69	谷川津線	高津	縄文~平安
70	谷川津線	高津	縄文~平安
71	谷川津線	高津	縄文~平安
72	谷川津線	高津	縄文~平安
73	谷川津線	高津	縄文~平安
74	谷川津線	高津	縄文~平安
75	谷川津線	高津	縄文~平安
76	谷川津線	高津	縄文~平安
77	谷川津線	高津	縄文~平安
78	谷川津線	高津	縄文~平安
79	谷川津線	高津	縄文~平安
80	谷川津線	高津	縄文~平安
81	谷川津線	高津	縄文~平安
82	谷川津線	高津	縄文~平安
83	谷川津線	高津	縄文~平安
84	谷川津線	高津	縄文~平安
85	谷川津線	高津	縄文~平安
86	谷川津線	高津	縄文~平安
87	谷川津線	高津	縄文~平安
88	谷川津線	高津	縄文~平安
89	谷川津線	高津	縄文~平安
90	谷川津線	高津	縄文~平安

第Ⅱ章 試掘調査の結果

1 かない いせき 金井遺跡 2

所在地 坂城町大字南条6028-1 他
事業主体 (株)セブンイレブン・ジャパン
事業名 店舗建設事業
調査期間 平成25年4月11日
面積 1,871㎡ (126㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

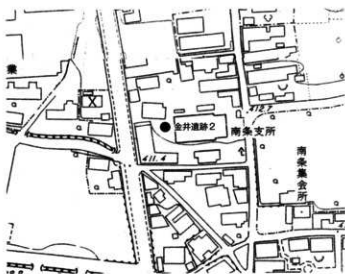
金井遺跡は、坂城町大字南条に所在する縄文時代から平安時代にかけての集落址である。平成15年に工場建設に先立って試掘調査が実施されたが、遺構などは確認できなかった。

今回、(株)セブンイレブン・ジャパンによる店舗建設事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、谷川の形成する扇状地の扇端付近に位置している。店舗建設予定箇所は農協の店舗が存在した場所で、解体時の立会調査で攪乱された状況が確認できた。このため場所をずらして東西及び南北方向に試掘トレンチを2か所設定し、遺構の有無を確認した。

1号トレンチでは遺構等は確認できなかった。2号トレンチでは現地表面から0.8m掘り下げたところ、黄褐色の地山層を確認面として住居址2棟等が確認された。



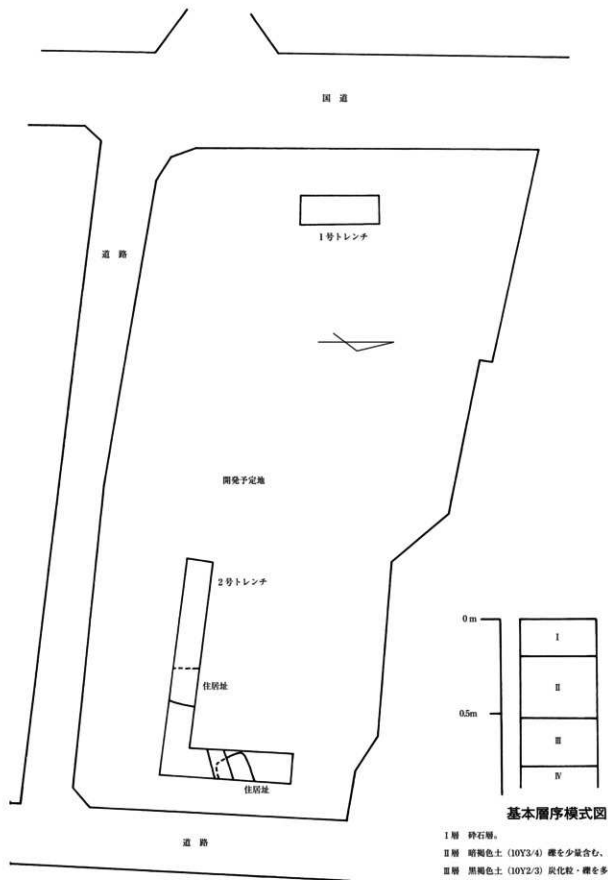
試掘調査位置図 (1 : 2500)



1号トレンチ検出状況 (南より)



2号トレンチ検出状況 (南より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 400)

2 おおきくほいせき 大木久保遺跡 I

所在地 坂城町大字南条2036他

事業主体 坂城町

事業名 小学校改築事業

調査期間 平成25年10月15日～

平成25年11月5日

面積 23,970㎡ (669㎡)

担当者 時信 武史



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

大木久保遺跡は坂城町大字南条に所在し、
西方方向に流下する谷川の扇状地の扇端付近、

標高約415m付近に位置する。「坂城町遺跡分布図」によると縄文～平安時代の集落址とされている。平成13年に宅地造成事業に先立って試掘調査を実施したが、遺構等は確認できなかった。

今回、坂城町による小学校改築事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することになった。

調査の成果

新校舎の配置計画にそって、12箇所のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。1号トレンチでは地表面から約1m掘り下げたところ、住居址と思われる遺構1基を検出した。2号トレンチでは地表面から約2.1m掘り下げたところ、土坑1基を検出した。3号トレンチでは地表面から約0.7m掘り下げたところ、住居址と思われる遺構1基を検出した。7号トレンチでは地表面から約1.4m掘り下げたところ、住居址と思われる遺構1基を検出した。9号トレンチでは地表面から約1.9m掘り下げたところ、土坑2基を検出した。12号トレンチでは地表面から約1.8m掘り下げたところ、住居址と思われる遺構1基、土坑1基を検出した。4号・5号・6号・8号・10号・11号トレンチからは遺構は検出されなかった。

調査の結果を踏まえて、記録保存のための本調査を実施することとして調査を終了した。



1号トレンチ検出状況 (南東より)



2号トレンチ検出状況 (北より)



3号トレンチ検出状況（南より）



6号トレンチ検出状況（北より）



7号トレンチ検出状況（北西より）



8号トレンチ検出状況（北東より）



9号トレンチ検出状況（北西より）



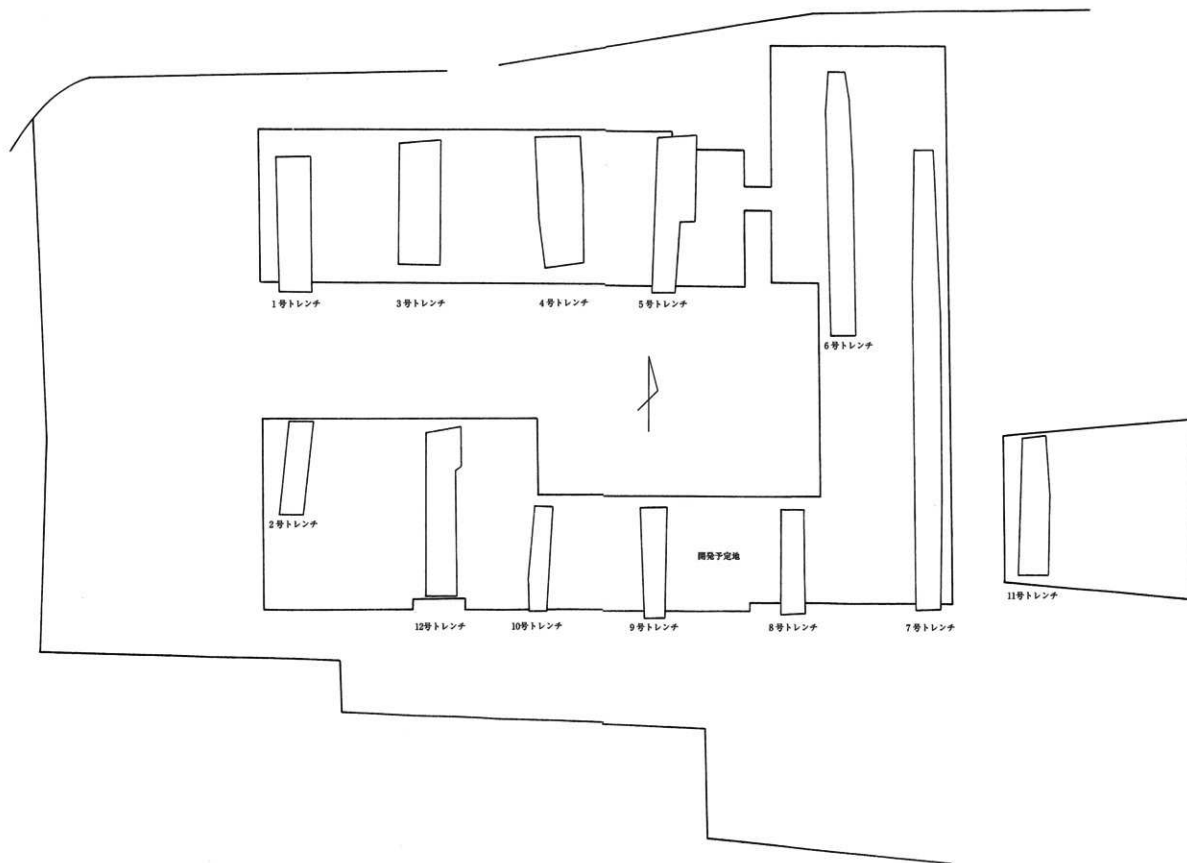
10号トレンチ検出状況（南西より）



11号トレンチ検出状況（北西より）



12号トレンチ検出状況（北東より）



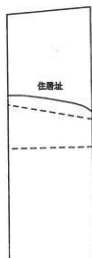
試掘トレンチ設定図 (1 : 400)



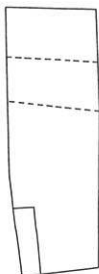
1号トレンチ



2号トレンチ



3号トレンチ



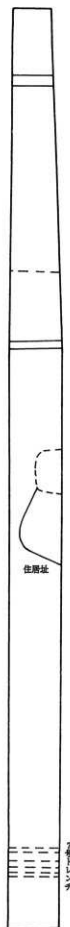
4号トレンチ



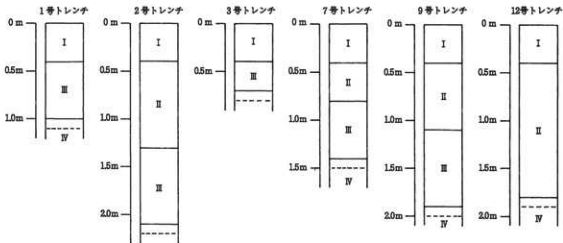
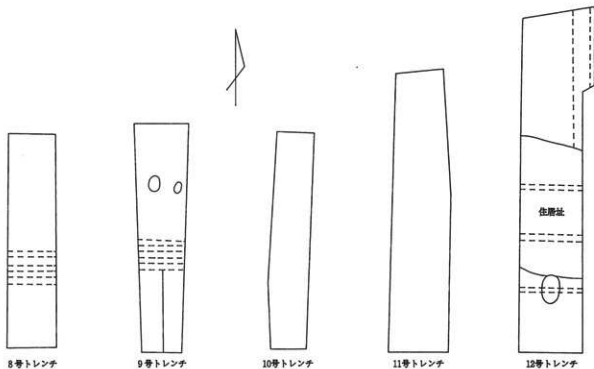
5号トレンチ



6号トレンチ



試掘トレンチ図 (1 : 200)



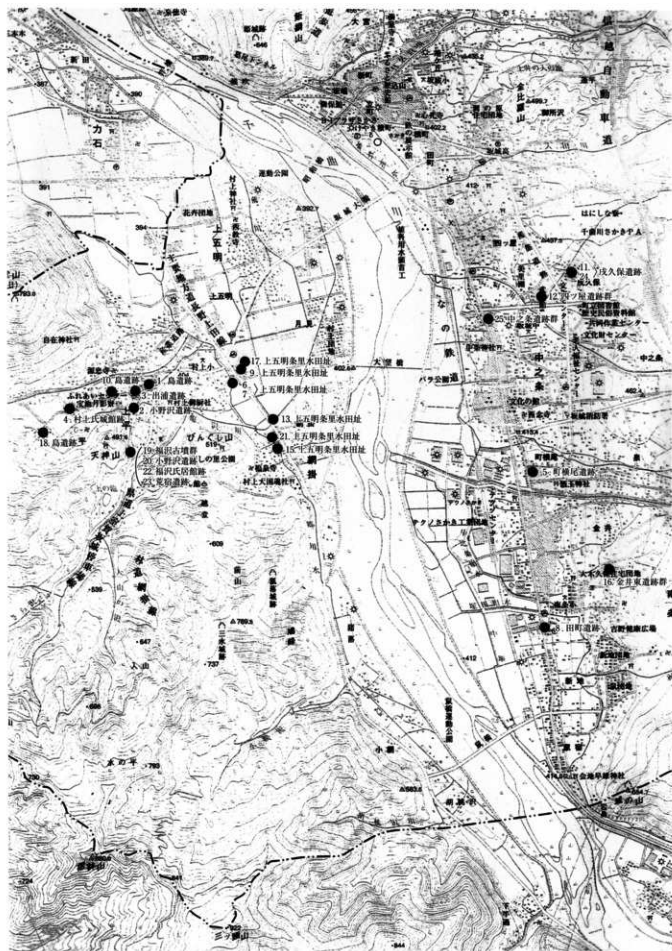
基本層序模式図

- I層 グラウンド整地層。
- II層 造成土層。
- III層 黒褐色土 (10Y2/3) 炭化粒・糠を多く含む、雑草層。
- IV層 黄褐色土 (10Y5/6) 砂礫土、地山層。

試掘トレンチ図 (1 : 200)

第三章 立会い調査の結果

No.	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積 (㎡)	調査期間
1	島遺跡	坂城町建設課	村上	下水管埋設	700	H25年4月22日～ H25年9月13日
2	小野沢遺跡	坂城町建設課	村上	下水管埋設	350	H25年4月22日～ H25年9月13日
3	出浦遺跡	坂城町建設課	村上	下水管埋設	300	H25年4月22日～ H25年9月13日
4	村上氏城館跡	坂城町建設課	坂城	下水管埋設	100	H25年4月22日～ H25年9月13日
5	町横尾遺跡	個人	南条	個人住宅建設	247	H25年5月13日～ H25年9月16日
6	上五明条里水田址	個人	村上	個人住宅建設	154	H25年6月11日～ H25年9月20日
7	上五明条里水田址	個人	村上	個人住宅建設	153	H25年6月11日～ H25年9月20日
8	田町遺跡	株式会社不二家	南条	広告塔建設	1	H25年6月20日～ H25年6月26日
9	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	20	H25年7月1日～ H25年12月20日
10	島遺跡	個人	村上	個人住宅建設	262	H25年8月1日～ H25年10月1日
11	戊久保遺跡	株式会社天田不動産	坂城	宅地造成	874	H25年8月1日～ H25年8月30日
12	四ツ屋遺跡群	社会福祉法人坂城福祉会	坂城	老人ホーム建設	2,982	H25年9月1日～ H26年2月28日
13	上五明条里水田址	国際石油開発帝石株式会社	村上	パイプライン埋設	36	H25年10月1日～ H25年11月30日
14	谷川古墳群	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	7	H25年9月24日～ H26年3月28日
15	上五明条里水田址	個人	村上	個人住宅建設	246	H25年10月16日～ H26年2月28日
16	金井東遺跡群	個人	南条	個人住宅建設	366	H25年11月25日～ H26年3月20日
17	上五明条里水田址	個人	村上	個人住宅建設	302	H25年11月15日～ H26年2月15日
18	島遺跡	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	60	H25年12月2日～ H26年3月31日
19	福沢古墳群	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	55	H25年12月2日～ H26年3月31日
20	小野沢遺跡	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	65	H25年12月2日～ H26年3月31日
21	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	70	H25年12月2日～ H26年3月31日
22	福沢氏居館跡	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	50	H25年12月2日～ H26年3月31日
23	荒宿遺跡	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	60	H25年12月2日～ H26年3月31日
24	戊久保遺跡	個人	坂城	個人住宅建設	232	H25年11月22日～ H26年4月16日
25	中之条遺跡群	KDDI 株式会社	中之条	携帯電話鉄塔建設	4	H25年12月9日～ H25年12月31日
26	上五明条里水田址	千曲建設事務所	村上	道路改良	326	H25年11月25日～ H26年3月31日
27	込山遺跡群	千曲建設事務所	坂城	河川改修	300	H25年11月25日～ H26年3月31日
28	宮上遺跡	株式会社社板井製作所	中之条	倉庫建設	229	H25年11月25日～ H25年12月25日
29	金井西遺跡群	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	22	H25年12月18日～ H26年3月31日
30	金井東遺跡群	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	48	H25年12月18日～ H26年3月31日
31	戊久保遺跡	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	3	H25年12月18日～ H26年3月31日
32	上五明条里水田址	坂城町建設課	村上	下水管埋設	180	H26年1月6日～ H26年3月31日
33	島遺跡	坂城町建設課	村上	下水管埋設	120	H26年1月6日～ H26年3月31日



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

報 告 書 抄 録

ふりがな	さかきちやうないいせきはつちやうさほうこくしょ
書 名	坂城町内遺跡発掘調査報告書 2013
副 書 名	平成25年度試掘・立会い調査報告書
巻 次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第44集
編 著 者 名	青木 昌也・時信 武史
編 集 機 関	坂城町教育委員会
所 在 地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2014年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
金井遺跡 2	坂城町大字 南 条	20521		36°26'05"	138°11'34"	2013年4月11日	126	店舗建設事業
大木久保遺跡 3	坂城町大字 南 条	20521		36°26'05"	138°11'37"	2013年10月15日 2013年11月5日	669	小学校改築事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金井遺跡 2	集落址	縄文～中世	住居跡ほか	なし	
大木久保遺跡 3	集落址	縄文～平安	住居跡、土坑	なし	

坂城町埋蔵文化財調査報告書

『開成製鉄遺跡—第1次調査報告書』

『開成製鉄遺跡—第2次調査報告書』

『東条遺跡』

『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）

『南条遺跡群 塚田遺跡』

第1集	『南条遺跡群 東条遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『久久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開成遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群 込山C遺跡Ⅰ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群 込山D遺跡Ⅰ』	2007
第29集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条遺跡群 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開成遺跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』	2009
第35集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅳ』	2010
第37集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2009』	2010
第38集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2010』	2011
第39集	『町横尾遺跡Ⅲ』	2012
第40集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2011』	2012
第41集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅴ』	2013
第42集	『中之条遺跡群 山口遺跡Ⅰ』	2013
第43集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2012』	2013
第44集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2013』（本書）	2014

坂城町埋蔵文化財調査報告書第44集

坂城町町内遺跡発掘調査報告書2013

発行日 2014年3月31日
 編集者 坂城町教育委員会
 〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城 6362-1
 TEL 0268 (82) 1109
 印刷者 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号
 TEL 026 (243) 2105

